

ナタネミズツボ

Fukuia minima (Bartsch)

ニナ目イツマデガイ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類

国カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

日本固有種であり、既知の生息地が佐渡島と能登半島に限られるが、能登における生息環境が悪化しているため。

形態

殻高3mm程度の塔形の巻貝で、緑黄褐色を呈した半透明の殻を持つ。二次的な付着物により、殻の外観はほとんど黒褐色のこともある。軟体はほぼ黒色で、口器は幅広い。水中にいる生体を観察すると触角の基部に眼点が見える。

国内分布

佐渡島と能登半島北部。

県内分布

志賀町（富来地区）、輪島市（輪島地区、門前地区）、能登町（柳田地区）。

生態

湧水が滴る湿岩帯や溪流の岩肌、石上に生息。

生息地の条件

まとまった広さをもつ湿岩帯の存在。

生存の危機

道路工事に伴う湿岩帯の消失。水脈の消失。（A, D）

特記事項

これまで海岸近くに生息地が多いとされてきたが、能登地方では山間部にも生息地があることが判明した。水中で生体を観察すると「触角の基部に眼点がある」ことがわかり、従来の文献記録とは異なる特徴が見られる。

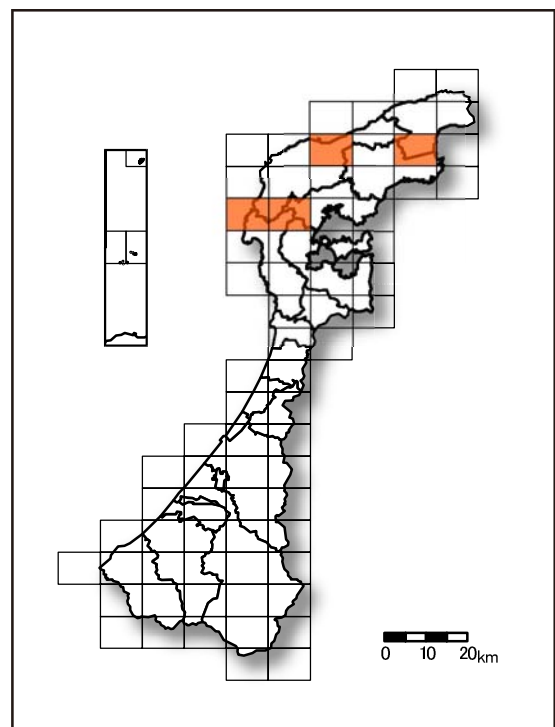
参考文献

増田修 2005. ナタネミズツボ. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 6 陸・淡水産貝類: 175.

増田修・内山りゅう 2004. 日本産淡水貝類図鑑②汽水域を含む全国の淡水貝類. 240pp. ピーシーズ. 東京.



写真提供者: 石原一彦



県内の分布

カワネジガイ

Camptoceras terebra hirasei Walker

モノアラガイ目ヒラマキガイ科

石川県カテゴリー

絶滅危惧 I 類

国カテゴリー

絶滅危惧 I 類

選定理由

全国的に生息地が激減しているため。

形態

殻は左巻きで、殻高10mm、殻径3mmほどで著しく細長い。

国内分布

本州（山形県から岡山県にかけて）、四国、九州での報告がある。

県内分布

柴山潟からの古い記録があるが、最近の生息状況は不明。

生態

潟湖などの止水的環境下で水面直下～水深1m位に生息。堆積した落葉や枯れ枝、水草の茎に付着している。

生存の危機

潟湖の改修工事と水質汚濁。(A)

特記事項

溜池に生息する場合もあるので、石川県においても今後調査が必要である。

参考文献

松田征也 2000. カワネジガイ. 日本の希少な野生水産生物に関するデータブック（水産庁編）：30-31.

増田修 2005. カワネジガイ. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 6 陸・淡水産貝類：79.

増田修・内山りゅう 2004. 日本産淡水貝類図鑑②汽水域を含む全国の淡水貝類. 240pp. ピーシーズ. 東京.

湊宏 1993. 文献にみるカワネジガイの記録. 南紀生物. 35(2)：154-156.

写真（図）はありません。

分布図はありません。

県内の分布

ヒダリマキモノアラガイ モノアラガイ目ヒラマキガイ科

Culmenella rezvoji (Lindholm)

石川県カテゴリー

絶滅危惧 I 類

国カテゴリー

絶滅危惧 I 類

選定理由

全国的に生息地が激減しているため。

形態

殻は左巻きで、殻高6mm、殻径3mmほどの縦長に巻くヒラマキガイ類である。

国内分布

本州（青森県から大阪府）、最近では全国的に再確認がほとんど不可能な状態に至っている。

県内分布

柴山潟からの古い記録があるが、最近の生息状況は不明。

生態

潟湖などの止水的環境下に生息。堆積した落葉や枯れ枝、水草の茎に付着している。

生存の危機

潟湖の改修工事と水質汚濁。(A)

特記事項

カワネジガイと同時に採集されることがある。石川県においても今後の調査が必要である。

参考文献

松田征也 2000. ヒダリマキモノアラガイ. 日本の希少な野生水産生物に関するデータブック（水産庁編）：32-33.

増田修 2005. ヒダリマキモノアラガイ. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 6 陸・淡水産貝類：80.

増田修・内山りゅう 2004. 日本産淡水貝類図鑑②汽水域を含む全国の淡水貝類. 240pp. ピーシーズ. 東京.

写真（図）はありません。

分布図はありません。

県内の分布

カワシンジュガイ

Margaritifera laevis (Haas)

イシガイ目カワシンジュガイ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類

国カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

国内の分布状況から考えて石川県における生息地は極めて重要であるが、県内生息地（奥能登地方）における生息環境が悪化しており、早急な対策が望まれるため。

形態

殻は長卵形で殻長は10cmを越える個体もいる。イシガイ科の種とは異なり、軟体部（特に足の先端）が茶褐色である。

国内分布

北海道と本州。ただし、福井県以西では絶滅したと考えられる場所が多い。

県内分布

2008年の調査で輪島市山間部の小河川において生息が確認された。羽咋市と七尾市からも情報があるが現状不明。

生態

ヤマメ等のサケ科魚類の鰓に幼生が寄生する。輪島市の生息地では生貝は河川の砂礫底に生息。

生息地の条件

生貝が潜る砂礫底と幼生が寄生するヤマメの存在。生息地では最高水温が20℃を越えないことが重要。

生存の危機

河川上流域の開発。奥能登地方里山の過疎化。（A、B）

特記事項

「福井県レッドデータブック（動物編）」（2002）では「絶滅」にランクされており、北陸地方で生息が確実なのは奥能登地方のみである。早急に生息状況の把握が求められる。岐阜県では、生息地が天然記念物に指定されている場所がある。

参考文献

福井県 2002. 福井県の絶滅のおそれのある野生動物：230-238.
石原一彦 2009. 石川県能登半島で見つかったカワシンジュガイ. ちりぼたん. 39 (2) : 131-132 (淡水貝類研究会第14回研究集会講演要旨).
近藤高貴 2005. カワシンジュガイ. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 6 陸・淡水産貝類 : 301.
近藤紀巳・大森清孝・後藤常明 1993. 岐阜県におけるカワシンジュガイの生息状況. 岐阜県博物館調査研究報告. (14) : 11-18.
輪島市 1973. 輪島市史 資料編第5巻自然環境資料.



写真提供者：石原一彦

分布図はありません。

県内の分布

カタハガイ

Pseudodon omiensis (Heimburg)

イシガイ目イシガイ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類

国カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

国内分布から考えて石川県の生息地は多くないと推測されるが、本種の生息地である水路の生息環境が悪化しているため。

形態

殻は長卵形で後背縁に放射状の肋がある。殻の内側にある後側歯が弱いことがイシガイ科の他の小型種との区別点である。殻長は最大で90mmに達する。

国内分布

愛知県以西に分布。日本海側では富山県まで記録あるが、富山県では絶滅したとみられ、生息確実な東限は石川県。

県内分布

邑知潟周辺と志賀町（志賀地区、富来地区）の水路。

生態

小川や水路の砂泥底に生息する。

生息地の条件

生貝が潜る砂泥底と幼生が寄生する魚類（ハゼ類など）の存在が条件。

生存の危機

水路の改修工事による砂泥底の消失。外来魚の侵入により幼生の寄主となる魚類がいなくなること。
(A, C)

特記事項

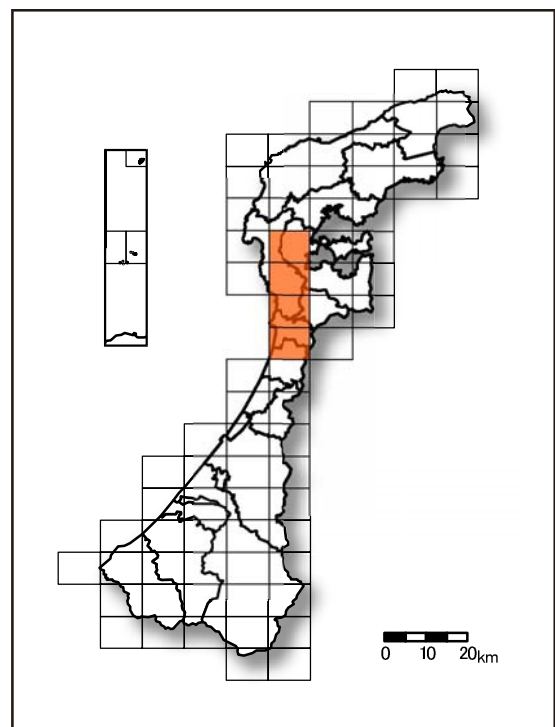
石川県の個体群は東限（北限）域にあたる。

参考文献

石原一彦 2008. 石川県邑知潟周辺の水路で見られるイシガイ類（予報）. ちりぼたん. 39 (1) : 55-56. (淡水貝類研究会第13回研究集会講演要旨).
近藤高貴 2005. カタハガイ. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 6 陸・淡水産貝類 : 356.
近藤高貴 2008. 日本産イシガイ目貝類図譜. 日本貝類学会特別出版物第3号. 69pp. 日本貝類学会
富山県 2002. 富山県の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブックとやま—.



写真提供者：石原一彦



県内の分布

カラスガイ

Cristaria plicata (Leach)

イシガイ目イシガイ科

石川県カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリ 準絶滅危惧

選定理由

水路の改修工事により生息環境が悪化しているため。

形態

殻は後背縁が張り出した卵円形。幼貝では後背縁の翼状突起が特に発達する。県内では殻長が20cmを越える個体も見つかっている。殻の内側に弱い後側歯のあることがドブガイ類との識別点となる。

国内分布

本州と北海道。

県内分布

柴山潟のほか、2008年初めに邑知潟の水路でも生息が確認された。今江潟干拓地でも死殻が得られている。

生態

水路の砂泥底に生息する。

生息地の条件

生貝が潜る砂泥底と幼生が寄生する魚類（ハゼ類など）の存在が条件。

生存の危機

水路の改修工事による砂泥底の消失。外来魚の侵入により幼生の寄主となる魚類がいなくなること。
(A, C)

特記事項

柴山潟と邑知潟では水路以外の生息状況が不明であるため、潟本体における調査が必要である。ドブガイ等と混同されていることが多いので、既存情報については精査が必要である。

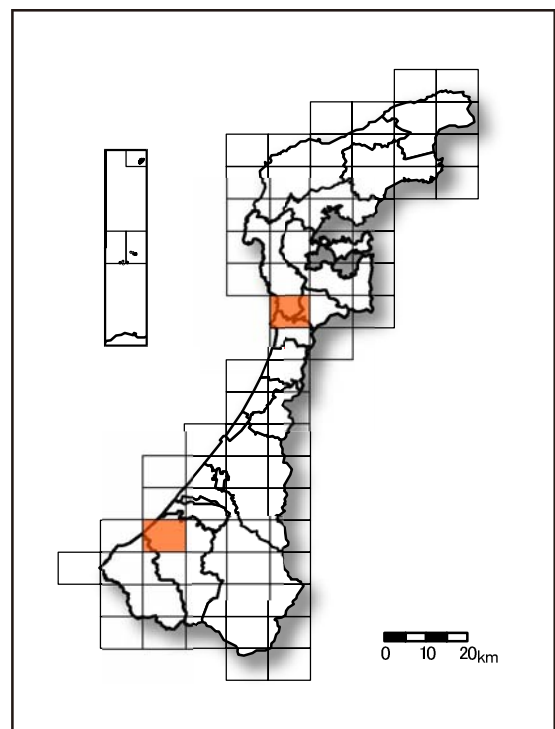
参考文献

近藤高貴 2005. カラスガイ. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 6 陸・淡水産貝類: 355.

近藤高貴 2008. 日本産イシガイ目貝類図譜. 日本貝類学会特別出版物第3号. 69pp. 日本貝類学会
増田修・内山りゅう 2004. 日本産淡水貝類図鑑②汽水域を含む全国の淡水貝類. 240pp. ピーシーズ. 東京.



写真提供者: 石原一彦



県内の分布

ヨコハマシジラガイ

Inversiunio jokohamensis (Ihering)

イシガイ目イシガイ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー 準絶滅危惧

選定理由

水路の改修工事により生息環境が悪化しているため。

形態

類似のマツカサガイと比較すると、殻頂付近に顆粒状の模様があり、後背縁の放射状模様は不明瞭。しかし、殻の表面が摩耗した個体では区別が困難なことがある。

国内分布

山陰地方・近畿地方東部から北海道南部。

県内分布

邑知潟周辺、志賀町（志賀地区）、珠洲市。

生態

水路の砂泥底に生息する。

生息地の条件

生貝が潜る砂泥底と幼生が寄生する魚類（ハゼ類など）の存在が条件。

生存の危機

水路の改修工事による砂泥底の消失。外来魚の侵入により幼生の寄主となる魚類がいなくなること。
(A, C)

参考文献

石原一彦 2008. 石川県邑知潟周辺の水路で見られるイシガイ類（予報）. ちりぼたん. 39 (1) : 55-56. (淡水貝類研究会第13回研究集会講演要旨).

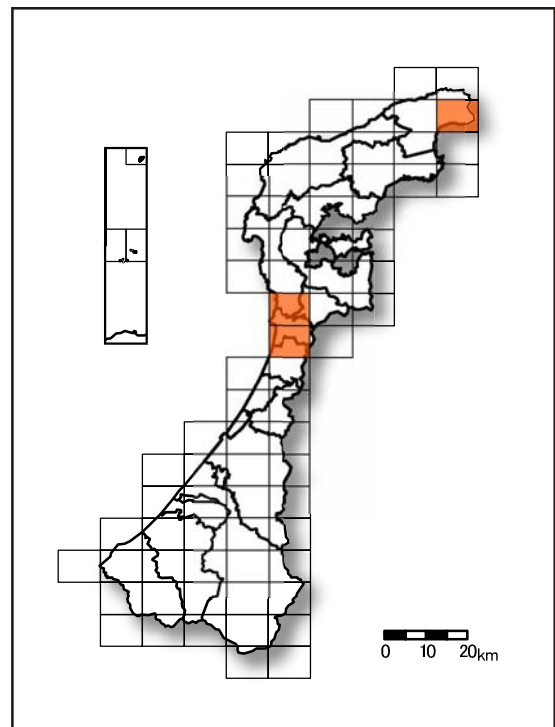
Kondo, T. 1998. Revision of the Genus *Inversiunio* (Bivalvia : Unionidae). VENUS. 57 (2) : 85-93.

近藤高貴 2008. 日本産イシガイ目貝類図譜. 日本貝類学会特別出版物第3号. 69pp. 日本貝類学会

増田修・内山りゅう 2004. 日本産淡水貝類図鑑②汽水域を含む全国の淡水貝類. 240pp. ピーシーズ. 東京.



写真提供者：石原一彦



県内の分布

イシマキガイ

Clithon retropictus (Martens)

オキナエビス目アマオブネ科

石川県カテゴリー

準絶滅危惧

国カテゴリー

なし

選定理由

本種は回遊型であり、幼生の生息環境である汽水域の生息環境が悪化しているため。

形態

殻はほぼ球形で、成貝では殻径15～20mmになる。成貝では殻頂部が浸食されていることが多い。殻表面は緑褐色から黒褐色で微少な三角形模様が密にある。

国内分布

房総～新潟県以南のほぼ全域に分布。

県内分布

川北町、手取川、志賀町（富来地区）、七尾市、能登町、珠洲市。珠洲市では河川に通じる水路内で本種が多産する例が知られている。

生態

汽水域上部～淡水域に生息。産卵は岩礫上やコンクリート表面で行われ、卵嚢は長径1～2mmの楕円形。孵化した幼生は一度海に下り、幼貝となって遡上してくる。

生息地の条件

幼生の生息環境である汽水域と産卵基質となる石などの存在。

生存の危機

工事による汽水環境の消失、水質悪化。(A)

特記事項

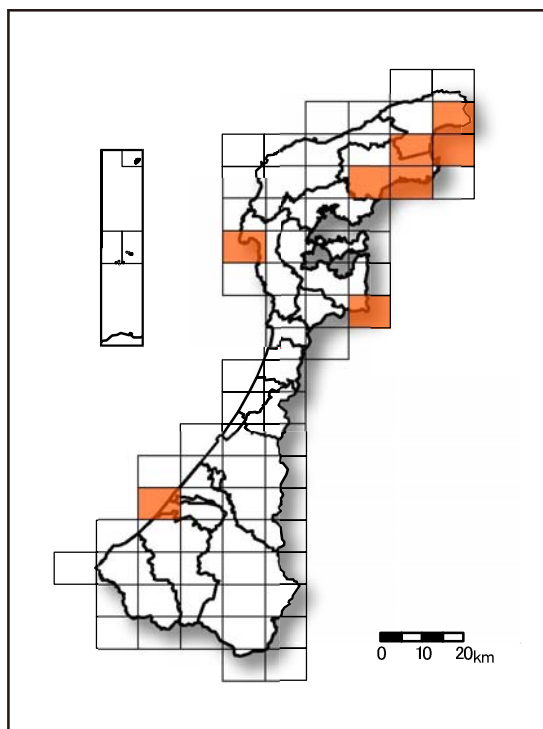
「水産庁レッドデータブック」（1998）では「減少種」にランクされている。

参考文献

増田修・内山りゅう 2004. 日本産淡水貝類図鑑②汽水域を含む全国の淡水貝類. 240pp. ピーシーズ、東京。
西村三郎 1996. イシマキガイ. 日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料(Ⅲ): 3-7, 79. (社)日本水産資源保護協会.



写真提供者: 石原一彦



県内の分布

ニクイロシブキツボ

ニナ目イツマデガイ科

Fukuia kurodai kurodai Abbott et Hunter

石川県カテゴリー 準絶滅危惧

国カテゴリー 準絶滅危惧

選定理由

生息環境が限定され生息地における生息密度は低い。

形態

殻高9mm、殻径5mm、螺層は6層。軟体部は黄褐色、殻は卵状の円錐形、光沢のある赤褐色。

国内分布

秋田県から兵庫県にかけての日本海側の山地。

県内分布

能登および加賀山間部より生息報告がある。

生態

溪流の源流部の水が滴り落ちるような崖地にみられる。

生息地の条件

常に飛沫がかかる岩肌や溪流の水際の垂直な崖の存在。

生存の危機

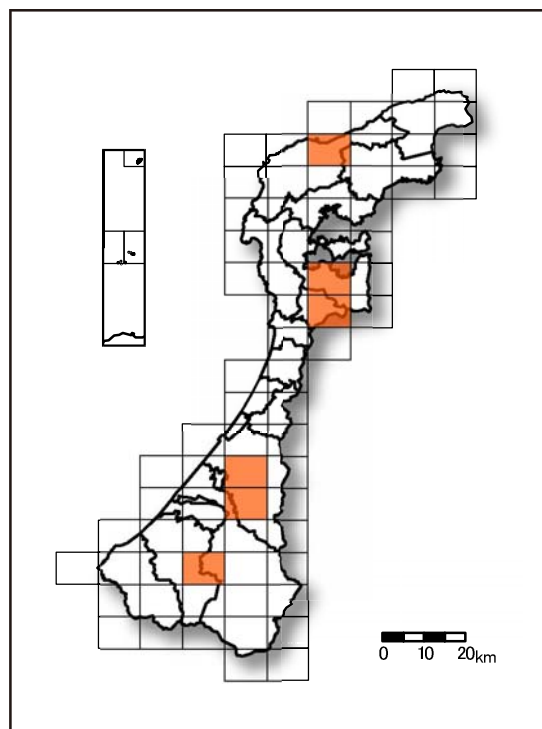
道路・林道整備、溪流の砂防工事。(A)

参考文献

野村卓之・高橋久 2008. 石川県の陸・淡水産貝類. しぶきつぼ. 29 : 45-52.
川端義信 2004. 能登半島産の軟体動物目録. 七尾少年科学館研究報告. 8 : 43-82.
江川和文 1994. 石川県産ニクイロシブキツボの諸知見. ちりぼたん. 25 : 18-20.



写真提供者：高橋久



県内の分布

カワザンショウガイ

Assiminea lutea japonica Martens

ニナ目カワザンショウガイ科

石川県カテゴリー 準絶滅危惧

国カテゴリー なし

選定理由

本県においては、今のところ汽水域のヨシ帯に出現するが、生息確認地点は多くない。水辺の開発により消失の可能性がある。

形態

殻は丸味を帯びた円錐形。殻径5～6mm、殻高6～7mm。体層下部はやや角張り、褐色の色帯を持つ個体もいる。

国内分布

本州、四国、九州。

県内分布

能登の小河川の河口域、および加賀の潟湖の汽水域など。

生態

県内の確認地点はヨシ帯につながる礫や岩などの表面であり、群生する。

生息地の条件

露出した水際を伴う汽水域のヨシ帯。

生存の危機

湖岸や河口域の工事。(A)

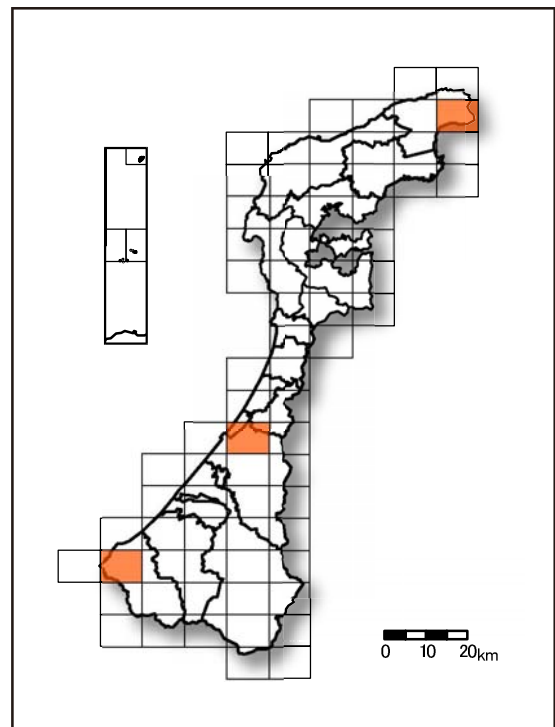
参考文献

野村卓之・高橋久 2006. 河北潟地域の陸・淡水産貝類相. 河北潟総合研究. 9 : 7-22.

野村卓之・高橋久 2008. 石川県の陸・淡水産貝類. しぶきつぼ. 29 : 45-52.



写真提供者：高橋久



県内の分布

ウミニナ

Batillaria multiformis (Lischke)

ニナ目ウミニナ科

石川県カテゴリ 準絶滅危惧

国カテゴリ 準絶滅危惧

選定理由

石川県では生息環境が限定されているが、生息環境の悪化が著しいため。

形態

殻高30～35mmの細長い塔形の巻貝。ホソウミニナに似るが殻口上端にある滑層瘤の発達が顕著である。

国内分布

北海道から九州の主に太平洋岸に分布。

県内分布

九十九湾周辺、穴水湾周辺、志賀町の海岸。

生態

広い干潟の形成されない石川県では、淡水のしみ出しのある、時には潮に浸かる（飛沫がかかる）岩礁帯で、うっすらと泥がたまる窪みに生息。特に群生することがある。

生息地の条件

淡水のしみ出しのある海岸部。

生存の危機

海岸の護岸工事や埋立工事。(A)

特記事項

「水産庁レッドデータブック」（1998）では「減少傾向」にランクされている。

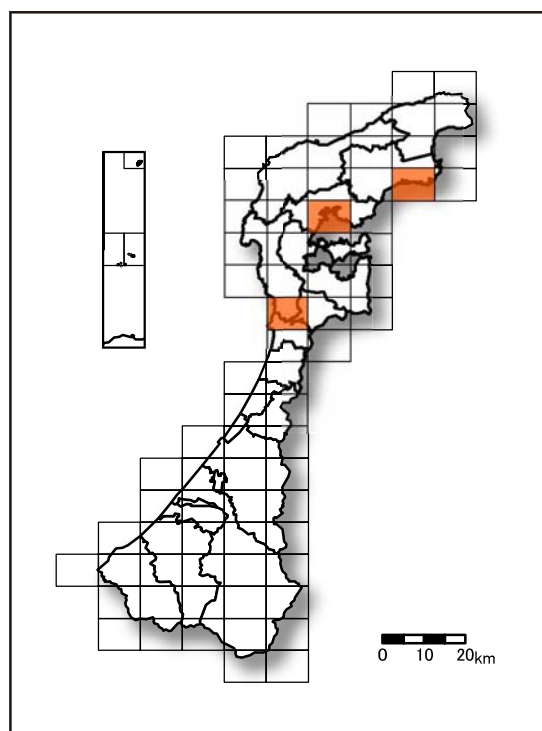
参考文献

増田修・内山りゅう 2004. 日本産淡水貝類図鑑②汽水域を含む全国の淡水貝類. 240pp. ピーシーズ. 東京.

黒住耐二 1995. ウミニナ. 日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料（Ⅱ）：73-78, 124.



標本・写真提供者:のど海洋ふれあいセンター



県内の分布

マツカサガイ

Inversidens japonensis (Lea)

イシガイ目イシガイ科

石川県カテゴリー 準絶滅危惧

国カテゴリー 準絶滅危惧

選定理由

石川県内では溜池やその下流部の水路に生息するが、寄主である淡水魚類の消失も含めて生息環境が悪化しているため。

形態

殻は卵円形で、殻長は最大で90mmに達する。殻表には逆V字型の模様があり、後背縁の放射状の模様は顕著に発達する。

国内分布

本州、四国、九州。

県内分布

加賀市、小松市、金沢市、宝達志水町、羽咋市、志賀町（富来地区）、七尾市（中島地区）。津幡町からも死殻が得られている。

生態

小川や水路の砂礫底に生息。溜池内にも生息する例がある。丘陵地の溜池下の水路に多産することがある。

生息地の条件

生貝が潜る砂泥底と幼生が寄生する魚類（ハゼ類など）の存在が条件。

生存の危機

水路の改修工事による砂泥底の消失。外来魚の侵入により幼生の寄主となる魚類がいなくなること。また溜池の放棄による影響も大きいと考えられる。（A, B, C）

特記事項

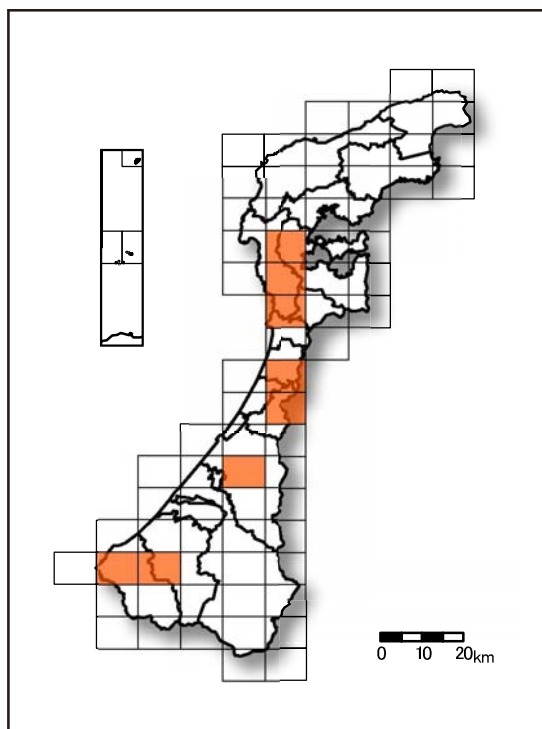
類似のヨコハマシジラガイは殻頂付近に顆粒状の模様があり、後背縁の放射状模様は不明瞭とされるが、殻の表面が摩耗した個体では区別が困難なことがある。

参考文献

近藤高貴 2005. マツカサガイ. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 6 陸・淡水産貝類: 355.
増田修・内山りゅう 2004. 日本産淡水貝類図鑑②汽水域を含む全国の淡水貝類. 240pp. ピーシーズ.
東京.



写真提供者: 石原一彦



県内の分布

イシガイ

Unio douglasiae Martens

イシガイ目イシガイ科

石川県カテゴリ 準絶滅危惧

国カテゴリ なし

選定理由

水路の改修工事により生息環境が悪化しているため。

形態

殻はやや細長く、殻長50mm前後になる。成貝では殻表面の彫刻模様は目立たないが、幼貝では連状の模様が見られる。

国内分布

日本全国。

県内分布

柴山潟、木場潟、邑知潟周辺の小河川、水路。河北潟水系の河川においても死殻が得られているが、河北潟水系では現状が不明。

生態

小川や水路の砂泥底に生息する。

生息地の条件

生貝が潜る砂泥底と幼生が寄生する魚類（ハゼ類など）の存在が条件。

生存の危機

水路の改修工事による砂泥底の消失。外来魚の侵入により幼生の寄主となる魚類がいなくなること。
(A, C)

参考文献

石原一彦 2008. 石川県邑知潟周辺の水路で見られるイシガイ類（予報）. ちりぼたん. 39（1）：55-56.（淡水貝類研究会第13回研究集会講演要旨）.

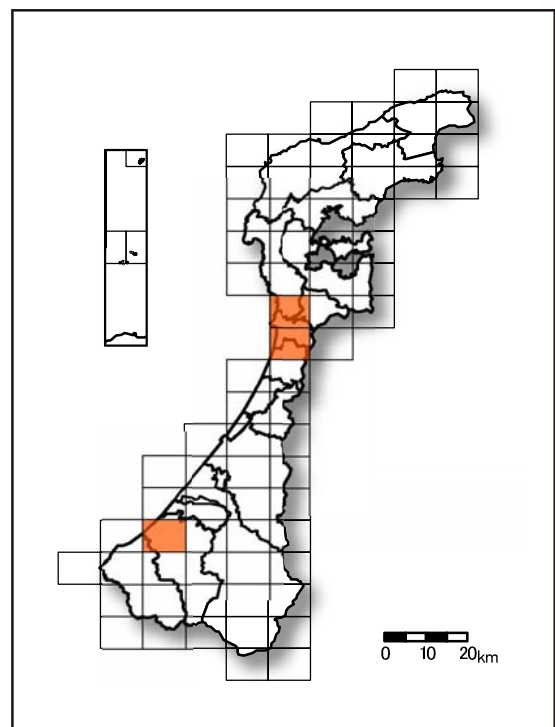
近藤高貴 2008. 日本産イシガイ目貝類図譜. 日本貝類学会特別出版物第3号. 69pp. 日本貝類学会

増田修・内山りゅう 2004. 日本産淡水貝類図鑑②汽水域を含む全国の淡水貝類. 240pp. ピーシーズ. 東京.

野村卓之・高橋久 2006. 河北潟地域の陸・淡水産貝類相. 河北潟総合研究. 9：7-22.



写真提供者：石原一彦



県内の分布

マシジミ

Corbicula leana Prime

ハマグリ目シジミ科

石川県カテゴリー 準絶滅危惧

国カテゴリー 準絶滅危惧

選定理由

本来の生息環境の条件が悪化しているとともに、近年は台湾シジミ種群の帰化・定着に伴い、種の置き換えりが起こっている。

形態

殻長30mm程度の亜三角形、殻はやや薄く、表面に比較的荒い成長脈がある。殻色は黄緑色から黒色で光沢は弱い。内面は白から青白色で殻縁部は紺色。

国内分布

北海道と島嶼を除く全国。

県内分布

平野部の水路や河川。

生態

雌雄同体の卵胎生で、河川や農業用水路などの底質中に生息する。

生息地の条件

比較的水質の良好な淡水域。

生存の危機

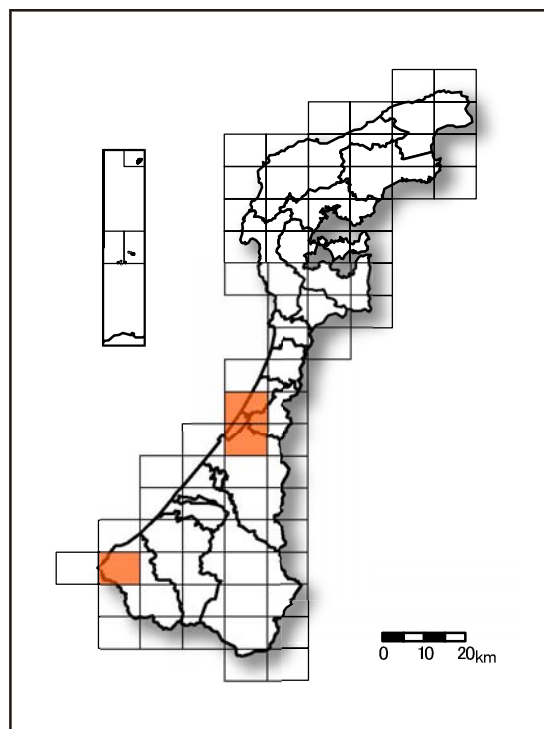
河北潟地域では台湾シジミの増加による種の置き換えりがみられる。その他に生息環境の人工化。(A, C)

参考文献

野村卓之・高橋久 2006. 河北潟地域の陸・淡水産貝類相. 河北潟総合研究. 9 : 7-22.



写真提供者：高橋久



県内の分布

ヒラマキガイモドキ

モノアラガイ目ヒラマキガイ科

石川県カテゴリー 情報不足

国カテゴリー 準絶滅危惧

Polypylis hemisphaerula (Benson)

選定理由

改訂版国の貝類レッドリスト（2007）で新たに準絶滅危惧にランクされ、石川県でも生息環境の改変が大きいと考えられるため。

形態

殻径4~5mmの円盤形の殻を持つ。殻中央の窪み（臍孔）は狭く深い。殻内の白いひだ（ほぼ90度ごとに形成される）が透けて見える。

国内分布

日本全国。

県内分布

加賀市、金沢市、内灘町、津幡町、輪島市、珠洲市。

生態

棚田の土水路や溜池に生息。

生存の危機

圃場整備と溜池改修。水田や溜池放棄。（A, B）

特記事項

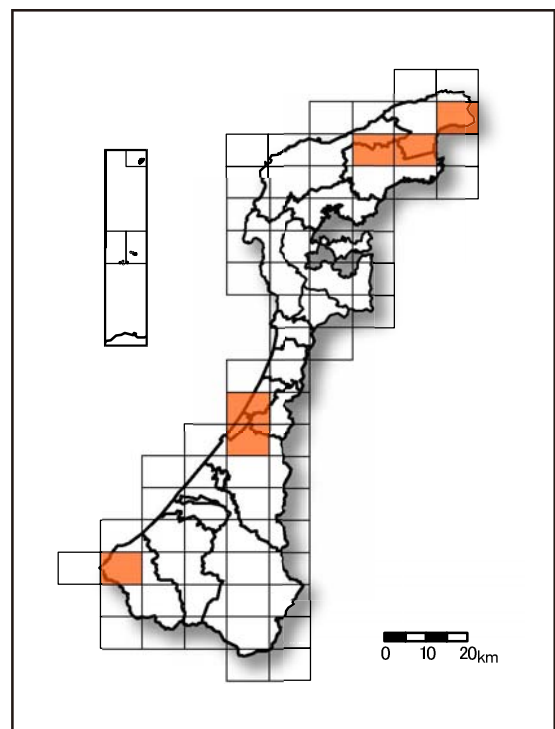
石川県にはヒラマキガイ類として*Gyraulus*属の種も生息するが詳細不明。ヒラマキガイモドキは*Gyraulus*属からは殻の形状で区別が容易である。なお、ヒラマキミズマイマイ*G.chinensis spirillus*は改訂版国の貝類レッドリスト（2007）で情報不足にランクされている。

参考文献

長谷川巖 1998. 福井県の陸水生貝類の概要と目録. 福井県自然環境保全調査研究会陸水生物部会（編）. 福井県の陸水生物：91-123. 福井県
増田修・内山りゅう 2004. 日本産淡水貝類図鑑②汽水域を含む全国の淡水貝類. 240pp. ピーシーズ. 東京.



写真提供者：石原一彦



県内の分布

ホソウミナ

Batillaria cumingii (Crosse)

ニナ目ウミナ科

石川県カテゴリ 情報不足

国カテゴリ なし

選定理由

石川県では生息環境が限定されていると考えられるが、生息環境の悪化が著しいため。

形態

殻高25～35mmの細長い塔形の巻貝。ウミナに似るが殻口上端にある滑層瘤の発達が弱い。

国内分布

日本各地の内湾や河口、干潟。

県内分布

九十九湾周辺。

生態

広い干潟の形成されない石川県では、淡水のしみ出しのある、時には潮に浸かる（飛沫がかかる）岩礁帯で、うっすらと泥がたまる窪みに生息。

生息地の条件

淡水のしみ出しのある海岸部。

生存の危機

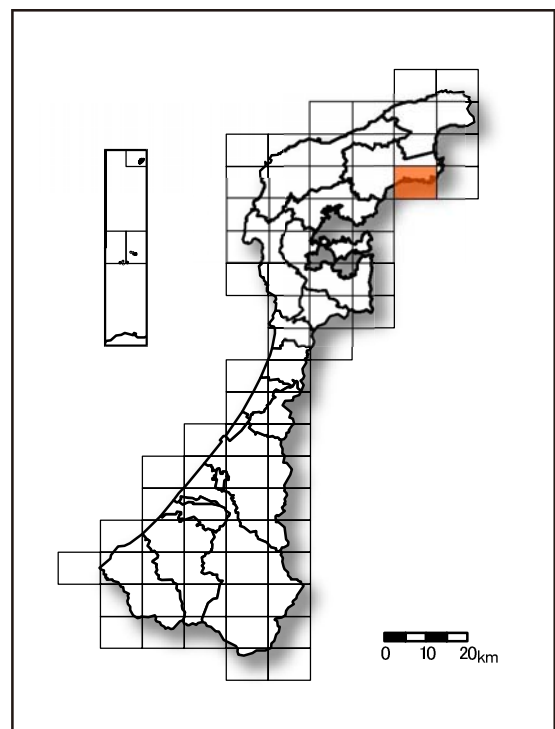
海岸の護岸工事や埋立工事。(A)

参考文献

増田修・内山りゅう 2004. 日本産淡水貝類図鑑②汽水域を含む全国の淡水貝類. 240pp. ピーシーズ. 東京.



標本・写真提供者:のど海洋ふれあいセンター



県内の分布

オバエボシガイ

Inversidens brandti (Kobelt)

イシガイ目イシガイ科

石川県カテゴリー

情報不足

国カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

石川県内では現状不明であるが、国内分布を考えると生息数は少ないと考えられるため。

形態

殻は短卵形で後背縁はやや張り出し、後端がやや尖る。殻長は30mm~40mm程度と小型。

国内分布

愛知県以西に分布。北陸地方では富山県から記録あるが、富山県では絶滅したとみられる。

県内分布

七尾市から情報があるが現状不明。

生存の危機

詳細は不明であるが、他のイシガイ科の種と同様の要因と考えられる。(A, C)

特記事項

石川県の生息地は東限（北限）にあたる。早期に現状の把握が望まれる。

参考文献

川端義信 2004. 能登半島産の軟体動物目録. 七尾市少年科学館研究報告. (8) : 43-82.

近藤高貴 2005. オバエボシガイ. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 6 陸・淡水産貝類 : 303.

近藤高貴 2008. 日本産イシガイ目貝類図譜. 日本貝類学会特別出版物第3号. 69pp. 日本貝類学会.

増田修・内山りゅう 2004. 日本産淡水貝類図鑑②汽水域を含む全国の淡水貝類. 240pp. ピーシーズ. 東京.

富山県 2002. 富山県の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブックとやま—.

写真（図）はありません。

分布図はありません。

県内の分布

ヤマトシジミ

Corbicula japonica Prime

マルスダレガイ目シジミ科

石川県カテゴリー 情報不足

国カテゴリー 準絶滅危惧

選定理由

改訂版国の貝類レッドリスト（2007）で新たに準絶滅危惧にランクされたが、石川県でも本種の生息地である汽水域の環境が悪化しているため。

形態

殻長30～50mmで亜三角形の二枚貝。殻表面は光沢のある黒褐色で内面は白色みを帯びる。

国内分布

北海道から九州にかけての汽水域に生息。福井県では、石川県に隣接する北潟湖に生息。

県内分布

柴山潟、河北潟、邑知潟、奥原潟、ただし現状は不明。

生態

河口、潟湖や流れの影響する内湾などの汽水域に生息。雌雄異体で卵生。

生存の危機

工事による汽水域の消失や水質の悪化。（A）

参考文献

長谷川巖 1998. 福井県の陸水生貝類の概要と目録. 福井県自然環境保全調査研究会陸水生生物部会（編）. 福井県の陸水生生物：91-123. 福井県
川端義信 2004. 能登半島産の軟体動物目録. 七尾市少年科学館研究報告. (8) : 43-82.
増田修・内山りゅう 2004. 日本産淡水貝類図鑑②汽水域を含む全国の淡水貝類. 240pp. ピーシーズ. 東京

写真（図）はありません。

分布図はありません。

県内の分布